

# U-Home

U-Home

# だより

〒708-1222  
岡山県津山市西中 329-1

株式会社 **U-Home**

TEL 0868-36-4372

FAX 0868-36-4498

✉ u-home@mx1.tvt.ne.jp

## 第 66 号

2月24日の早朝です。空は半分ほど晴れているのに、弱い風に乗ってほんの少し雪が舞っています。

人間とは勝手なもので、年末になって寒くなってきて、ふと気づくとチラチラと白いものが飛んでくると、「あっ、雪

だ！」と何か待ち遠しいものがやってきたという、歓迎にも似た気持ちになります。しかし、今年のように雪の日が多くなると、「もう雪は要らない！」と厄介者扱い。

2月も末になりだんだんと暖かくなってくると、「雪はもうしばらく見られないのか。」と何か名残惜しい気持ちにもなります。

♪なご〜り〜雪〜も〜♪ とか口ずさんでみたのですが……………。

実は3月7日の朝は吹雪と呼べるくらいの吹き降りでした。この寒気はしばらく居座り、8日の早朝はぼたん雪で、あたりはうっすら白くなってしまいました。

2月24日のあのセンチメンタルな気持ちは何だったのでしょうか？

余談ですが、9日と10日にも雪がハラハラと舞いました。本当に今年の雪はしつこい！さらに余談ですが15日にもみぞれ交じりの雪が降ったのであります。

3月19日に故郷（鏡野町百谷）の墓参りに行ってきました。

当日はやっと春らしい、とても暖かい日でした。今年の雪は北に行けば行くほどたくさんの雪が降りました。百谷の奥の方では一晩で60cm以上の雪が降ったこともあったそうです。百谷の谷筋をさかのぼって、寺谷地区に入ると、「あっ、雪がある！」。家の裏の屋根から落ちた雪がたくさん残っています。山影にもたくさんの雪が残っています。さらに奥、墓のところまで行くと、日なたにも雪が残っています。

思い返してみても、春の彼岸の時期にこのあたりに雪が残っている覚えがありません。枯れ草やススキや笹などが地形通りにペッチャンコになっている様を見ると、本当に大雪だったことがわかります。

墓地に近づくにつれ、いつもの年に比べて何か違和感を感じていたのですが、その意味が分かりました。今年は新しい草がほとんど生えていません。いつもなら墓参りを済ませてから、近くの野でうど菜を摘んで帰ります。1年に一度だけ、早春の鮮烈な香りを頂くのも、春の彼岸の墓参りの楽しみの一つです。今年はいくら探しても、うど菜ばかりかまだほとんど何も生えていません。山奥の今年の冬の厳しさを思い知らされた気がしました。



3月22日 那岐山はまだ雪で真っ白です。

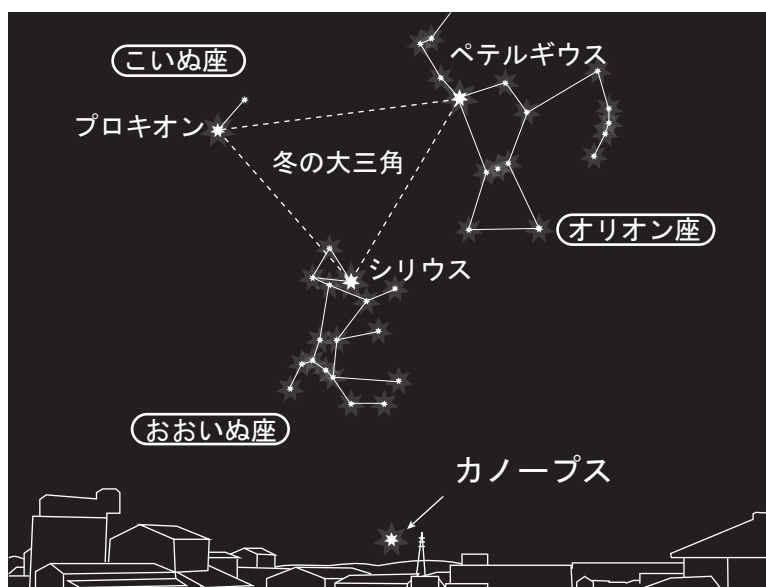
# あなたは『カノープス』を見たか！

## 【カノープスとは？】

カノープスとは、夜空に輝く星の名前です。

全天で一番明るく輝く恒星（自ら輝く天体）はおおいぬ座のシリウスです。（太陽以外で）そして2番目に明るい恒星がカノープスです。

以前、カノープスを見たことがあるか？の問いかけに、もちろんある！と答えたことがあります。生まれてからおよそ60年、いったい空のどのあたりにあるか知らないけれど、通常見える星で見たことがない星などないと思っていました。ましてや全天で2番目に明るい星を見落とすはずなどないと思っていました。しかし、調べてみて見たことがない星だということがわかりました。



カノープスは、ほぼ真南に位置し、中国地方では南中高度がおよそ3度くらいと非常に低く、水平線近くに見える星です。日本で見える北限は新潟県～福島県とされています。

見ごろは2月から3月中頃で、最も高度が高くなる時間は、2月末で夜8時ごろです。2月中頃では南中時間は夜8時半、3月中頃では夜7時半頃です。南中の1時間前後が観察に適した時間ということです。

そういうことなら一度見てやろうと思い、夜空を気にしていたのですが、かなり良く晴れて満天の星空の時でも、水平線付近は雲がかかっていることが多く見えない日が続きました。

2月28日の夜にとうとうその時はやってきました。日中は快晴でした。ひょっとすると、このまま夜も快晴のままかと期待していたら、案の定快晴のまま水平線

に太陽は沈んでゆきました。

夜7時半頃車で出かけました。家の真北、山形仙の手前におにぎりのような形をした金剛山があります。その西に池（金剛池？）があります。ここまで来れば旧の勝北町はほとんど見渡せるくらいの高さになります。見渡す限り雲一つない星空が広がっています。

早速、カノープスを探します。

南の空を見上げると星が三つ並んだ形が特徴の、オリオン座は一瞬でわかります。そのオリオン座でひときわ明るく星がペテルギウスです。このペテルギウスの左下に輝く星が、全天で一番明るい恒星、おおいぬ座のシリウスです。（月や火星や金星はこれより明るいけど恒星ではありません）このペテルギウスとシリウスとの中間くらいの真っすぐ下の方を見ると、探すまでもなくはっきり星が見えます。

全天で2番目に明るい星というから、どれほどきらびやかな星かと思っていたのですが、期待に反してごく普通の少し暗い星でした。水平線近くは天頂と比べて大気による減光の影響が大きく、たいへん暗く見えるということでした。

これほどの高台で見ると、予想していたよりも高い位置に見えます。これならわが家でも見えるのではと思い帰りました。2階のベランダから探します。JA勝北支所のマーケットの建物のずっと南に高圧線の鉄塔あり、そのずっと南に山の稜線があります。その鉄塔の左側、稜線の少し上にカノープスはありました。よく晴れた今日のような日でも、これほど頼りなく暗く見える星だから、見えたのはラッキーとしか言いようがありません。

中国では、カノープスを南極老人星と呼び、古くから戦乱の時に隠れ、天下泰平の時にしか姿を現さないと信仰されてきました。宋時代以降には幸福と長寿をつかさどる「南極老人」と神格化されました。日本の七福神の福祿寿や寿老人の元になった神様です。

今年カノープスを見られたおかげで、私も少し幸せで、少し長生きするかもしれません。

## 日本ミツバチの飼育（その13）

昨年の1月以来、一年間以上のご無沙汰でした。久々の『日本ミツバチの飼育』です。

今年ももう少ししたら分蜂のシーズンに入ります。今日は3月20日（春分の日）です。いつもなら、もう春の花があちこちに咲き始め、ミツバチたちも分蜂に向け

群れを大きくしている最中ですが、どうも今年は大雪の影響かほとんど花が咲いていません。今年に分蜂は遅くなりそうです。

次回のユーホームだよりには分蜂もほぼ終わっていると思いますので、今年状況などをお知らせしたいと思います。

1月22日、『巣箱作り講習会』“今年日本蜜蜂の飼育に挑戦してみませんか？”を開催したところ、午前・午後ともにたいへん多くの方のご来場をいただきまして、日本ミツバチに対する関心の高さに驚いています。

現在、日本の各地では、西洋由来のアカリンダニ症で日本ミツバチが一匹もいない地域があったり、原因不明の子捨てが止まらず飼育していた何十という群れが全滅したりと、日本ミツバチにとって危機的な状況になりつつあります。一人でも多くの方が捕獲に成功され、日本ミツバチを守って行かれますようお祈りいたします。

### <うさぎ追いかの山〜♪>

昔の人ならだれでも知っている歌です。なんとなく郷愁を誘う歌です。

皆さんの故郷はどこですか？

私が小学校に上がる前のことです。祖母に連れられて祖母の郷に行きました。一日中遊んで、夕方にはお客さんということで大変なごちそうでした。夜になり床の間に布団を敷いてもらって、祖母と二人で寝る準備ができました。団らんも終わり、皆そろそろ寝ようという頃になって私が「家に帰る！家に帰る！」と泣き出しました。長い間泣き続けるものだから、祖母も家の人にも根負けしてしまって、夜遅くなってから仕方なしに、祖母の甥が車で送ってくれました。

認知症の人が徘徊するのは、ぼけてしまって何もわからなくなったので徘徊し始めるのではなく、ずっと昔の記憶を呼び起こして、ずっと昔の思い出を探しているのだということを聞いたことがあります。

人間の頭の中は不思議なもので、学問などならいくら覚えようと思ってもなかなか覚えられないのに、何十年も前の何でもないことを覚えていたりします。この先私が認知症になったら、故郷を探してうろろと徘徊するのかもしれないなと思った次第でした。



平成29年3月20日